

4 近鉄大和八木駅北側のまちづくりにおける文化ホール機能のあり方について

県はこれまで、橿原文化会館を廃止することを打ち出しているが、近鉄大和八木駅北側のまちづくりを進めるにあたり、橿原市長の発言も踏まえ、県として文化ホール機能のあり方をどのように考えるのか。

<知事答弁>

橿原文化会館は、開館から40年以上が経過。多額の費用を投入して大規模な改修を実施しても長寿命化には限界がある。新アリーナや住民に身近な市町村の文化施設への代替、あるいは改修後の奈良県文化会館の利活用など、県全体の公的資源の有効活用という観点から、橿原文化会館の廃止方針に変更はない。

本年1月、橿原市とのまちづくり協議会において、大和八木駅北側のまちづくりについて、県と橿原市が連携して検討を始めたところ。民間活力によるにぎわい創出と公共公益施設の複合施設の立地可能性も視野に入れている。

大和八木駅北側のまちづくりについては、検討の緒に就いたばかりだが、この地域の将来像や導入すべき都市機能について、今後、幅広く議論を深めていきたいと考えている。

一方、その後、橿原市長が市議会において、大和八木駅周辺における文化ホール機能の必要性について、言及されていることについては承知。その橿原市が、文化ホール機能の必要性を踏まえた具体的な考えを示されるのであれば、その意見に積極的に耳を傾けていきたい。

県としては、引き続き橿原市と連携しながら、大和八木駅北側のまちづくりを通じて、中南和地域にふさわしい都市機能のあり方について総合的に検討を進めていく。

<山本議員要望>

大和八木駅周辺地区のまちづくりの整備における橿原文化会館廃止への不満は、地元の橿原市民だけでなく、中南和全域の県民の声でもある。

廃止の意向は変わらないとのことだが、本年2月県議会の西川議員の質問で、近隣の市町村と一緒に文化施設を建設してはどうかとの問いに、知事は前向きな答弁をされている。頑なに廃止と言うのではなく、亀田橿原市長と大和八木駅周辺地区のまちづくりの検討を進める中で、橿原市が、橿原文化会館の用地に具体的な方向性を示して考えるなら、是非知恵を絞って、方針転換いただきたい。

＜山本議員再質問＞

今回の代表質問は、県民が知事に届けたい何点かの声を、私が代弁して質問したもの。県民の声を聞き、施策に取り組むにあたっての知事の考え方を再度うかがいたい。

＜知事答弁＞

全体についての再質問としてお答えする。県民からのご意見・ご要望はいつも真剣・真摯に受け止めているところ。一方、県内の人口は今後更に減少していくことは明らかであり、時流を踏まえて未来に過大な負担を残さないようにすることも、今を生きる我々の、将来に対する責任と考えている。こうした観点も踏まえ、県民からのご意見・ご要望を実現すべく、施策の推進に取り組んでまいりたい。

＜山本議員意見＞

私たちも、知事も、県民を思っの政治というのは変わらないものと考えており、ここでそれぞれの質問について、個々に知事と論戦をするつもりはない。また、この4点の質問の答えは、すぐにいい答えを出せるものではないことも承知している。

今後これらのことについては、機会がある度に議論していくことを、この場で申し入れして、私の代表質問を終わる。